

巻頭言

# 伊藤和行先生のご逝去ならびに追悼記念号について

伊勢田 哲治\*

## On Passing Away of Professor Kazuyuki Ito and the Memorial Issue of This Journal

Tetsuji Iseda

京都大学文学研究科科学哲学科学史専修の教授であり、本誌『科学哲学科学史研究』の編集に長く携わってこられた伊藤和行先生が、2021年7月5日にご逝去されました。本来であれば先生は2022年3月をもって定年退職されるはずでした。早すぎる別れに残された我々は言葉を失っております。

それまで大変お元気そうであられた伊藤先生に人間ドックで膵臓がんが発見されたのは2020年の9月のことでした。発見されたときにはすでにがんはかなり進行していたとのことでした。先生は自らの病気について専門家の意見を聞くなどして調べられ、病状が非常に深刻であることを理解すると、短時日の間に10月からの休職を決意されました。「残されたわずかな時間を大学の雑務で使いたくはないから」と冗談のように言いおいて、先生はご家族の住む北海道に転居されての闘病生活を始められました。

その後も先生からは折に触れて病状についての連絡をいただきました。先生の言葉からは、先生が自らの病気や治療法についてよく調べられ、主体的にがんと闘っておられる様子がうかがえました。抗がん剤治療についてこと細かに説明する先生の口調は、内容の深刻さにもかかわらず、どこか楽しげにすら聞こえました。「がんについて勉強するならこの本いいよ」と本をすすめていただいたこともあります。

2月の卒論・修論試問や大学院入試のころには先生の病状はかなり安定し、試問や会議にも一部リモートで参加いただくことができていました。その後も先生の体調のよいときに学生の指導にリモートで参加いただいたこともありました。しかし年度がかわるころから病状が悪化し、先生からの連絡も途絶えがちとなりました。そんな中、まさかまだと思っているうちに早すぎる訃報を聞くこととなりました。

先生は最後まであとに残す指導生たちのことを気にかけておられたとうかがって

---

\* 京都大学

ます。われわれが頼りないせいでそうしたご心配をおかけしたのだと思うと申し訳ない気持ちになります。あとに残された者一同、学生はきちんと研究を形にし、教員はしっかりそれをサポートしていくことでしか先生のお気持ちに答えることはできないと思います。

私がこの専修に赴任してから、ということは伊藤先生と共にこの研究室を運営するようになって、13年がたちます。この間、研究への態度、大学人としての心構えなど、先生の立ち居振る舞いから多くのことを学ばせていただきました。伊藤先生は事務的なことには大変きめ細かに心をくばられる一方で、こういうふうに研究室を運営したいという私や学生からの要望には最大限融通をきかせていただき、ある意味で鷹揚に、やりやすいようにやらせていただいていたように思います。ただ、こと話が科学史の研究のことになると、とたんに鷹揚さが影をひそめて学問に厳しい面が顔をみせ、学生にも厳しい言葉が飛びます。その豹変ぶりをいつも隣で頼もしく思ってきました。しかし、こうして今先生にかわって指導せねばならぬ立場となったとき、ただ見て感心しているだけでなく、もっときちんと勉強させていただいておけばよかったと後悔することしきりです。

本誌の編集に関してもこれまで先生にたよりきりであったため、私自身これから勉強しなくてはならないことが多くあります。実は、本誌が先生にとっても発行の事務をになう大学院生にとっても負担になっている面があったので、私から休刊してはどうかと提案したこともあります。しかし、先生は闘病生活に入られる前に、本誌がきちんと継続して発刊できるよう、院生たちにも託していかれました。先生自身、本誌を研究の中間報告の場として好んで用いられ、毎号のように研究ノートを寄稿してこられました。本誌に対するそうした先生の思い入れに答えるためにも、本誌はきちんと継続していかねばならないと感じています。

2022年度に刊行される次号は、伊藤和行先生の追悼特集号とさせていただきます。伊藤先生についての思い出の寄稿、および、伊藤先生に縁のある方たちからの論文のご寄稿をお願いしたいと思います。関係するみなさまのご協力をいただければと思います。現段階で決まっている寄稿概要を以下掲載します。

## 伊藤和行先生追悼記念号寄稿概要

### 寄稿カテゴリ

通常の投稿カテゴリ（論文、サーベイ論文、研究ノート、書評、翻訳）に加えて、今

号では以下の2つのカテゴリの寄稿を受け付けます。

- 1 追悼エッセイ (4000 字以内) 伊藤先生との思い出などの文章 (査読なし)
- 2 寄稿論文 (20,000 字以内) 伊藤先生と関わりのある方たちの科学哲学科学史に関する論文のご寄稿 (査読なし)

#### 寄稿資格

伊藤先生と学術的な交流を持たれた方々のご寄稿を広く受け付けます。

#### 寄稿の流れ

- 寄稿いただける方は 2022 年 7 月末日までに本誌事務局メールアドレスまで (1) お名前 (2) ご所属 (ある場合) (3) メールアドレス (4) 寄稿カテゴリをご連絡ください。後日、提出用の TeX のテンプレートと原稿作成マニュアルを事務局からお送りいたします。
- 原稿は 2022 年 9 月末日までにご提出をお願いいたします。寄稿論文の場合には 200 語程度の英文要旨も添えてご提出ください。
- すべての原稿について編集委員が掲載の可否を判断します。追悼エッセイと寄稿論文については査読は行いませんが、事務局より内容の修正についてご連絡させていただく場合がありますのでご了承ください。
- 投稿についてのその他の事柄については、公開されている投稿規定および投稿受付時に送付する作成マニュアルを参照してください。投稿規定は以下の pdf をご参照ください。

[https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/262963/1/phs\\_15\\_a.pdf](https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/262963/1/phs_15_a.pdf)

#### 発行日時および形態

追悼号は 2023 年 3 月末日公開を予定しています。本誌は数年前よりオンラインのみでの刊行となっており、本追悼号もオンラインのみでの公開となることをご了承ください。

#### 連絡先

『科学哲学科学史研究』編集事務局  
editor.phsstudies@gmail.com